

ビデオ教材の開発と貸出について

澤田直子, 吉井なつ美※), 坂本美々, 北村香, 久川信子, 青野美紀※), 牛鷹典代, 仲田忠信

(公益財団法人高知県のいち動物園協会 ※は平成24年度まで在籍)



はじめに

当園では各種レクチャーや施設見学、ふれあい教室など年間を通して実施しており、その形態や内容もできるだけニーズを考慮したものとなるよう努めている。これらの利用状況は全体的に増加傾向にありリピーターも多い。また当園では、18年前から3種類(のいち動物園の紹介、飼育係の1日「チンパンジー編」、鳥のくちばし)のビデオ教材を用意しており、来園時の視聴のほか、遠隔地へは郵送による貸出も行ってきたが、内容が更新されておらず、近年は利用されるビデオに偏りも見られるようになってきている。そこで需要が高く遠隔地でも利用が可能なビデオ教材を新たに制作することとなった。

制作について

高知県下の公立小学校では2年生の国語の授業で教科書に出てくるビーバーについて学習しているため、補助教材としての需要を考慮して今回はビーバーを題材にしたビデオ制作を行った。当園でも飼育係によるビーバーのレクチャーは人気のプログラムとなっておりより良い学習環境で学んでもらおうと、どうぶつ科学館内にビーバーレクチャーコーナーを2012年3月に新設した経緯もある(写真1)。

教材開発は平成24年7月より開始し、教育普及係でもある企画担当職員が一括して行うこととなった。タイトルは子どもたちが親しみやすいように「だいすき!ビーバー」とした。教科書では主に生態、巣作りについて取り上げており、当園でもこれらをメインに構成を組んだが補助教材となるように体の特徴も盛り込むこととした。編集ソフトは市販のものを利用したが、初期投資のみで比較的手軽に使用できるため今後も大いに活用したいと考えている。またビデオのDVD化においてはOSとの相性や機器の種類などを考慮して一般的に使いやすいMPEG2形式とした。



(写真1) どうぶつ科学館2階ビーバーレクチャーコーナーにて



担当飼育員の整場シーン



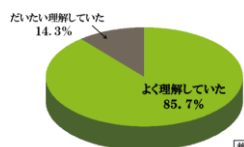
(写真2) ビデオタイトル



木をくわえて運ぶビーバーの姿

貸出とその後のアンケート結果について

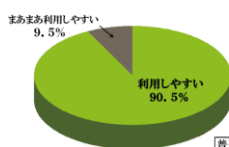
完成後は単元学習時期に合わせるため、直ちに広報に取りかかった。HPや地元新聞への掲載、チラシ配布などの手段でPRしたためすぐに問い合わせ等が集中し、平成24年10月から12月末までに27件の貸出依頼を受けた。中には県内遠隔地や県外からの要望もあり、団体来園できない小学校へ情報提供できたことは当園としても良い結果となった。貸出期間は原則2週間とし、また今後の参考のためにアンケートを同封した。アンケート結果では、ほとんどの団体から高い評価を得られたことが分かる。補助教材というには充実した内容となっていたが、理解度も高く(図2)、学校の学習だけでは限界がある題材だけに効果的に利用されたことはよかった(図3) また教職員からは今回「体の特徴」を交えた構成を高く評価する声が多かった。これらは普段細かく観察できないポイントであり、学習要素も高く子どもの興味を引きやすい項目であったと考える。今回の内容は11分で制作したが、アンケートには「やや短い」が数件あることから小学校低学年には集中時間を考慮しても10分~15分程度が適当だといえる。(図4)



(図2) 生徒の理解度

普通	0%
あまり理解できていない	0%
理解できていない	0%

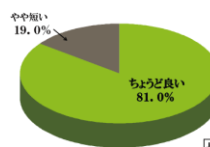
高知県立のいち動物園



(図3) 補助教材としての利用について

普通	0%
少し利用しにくい	0%
利用しにくい	0%

高知県立のいち動物園



(図4) ビデオの長さについて

長い	0%
やや長い	0%
短い	0%

高知県立のいち動物園

考察

今回学校側の学習時期などをあらかじめ考慮して制作にとりかかったことは、利用促進につながる良い結果を生んだ。また県内遠隔地や県外への貸出も当初の目的の一つであり、結果的に需要があることもわかった。今後もより広く活用してもらうため定期的な広報が必要である。また、アンケートにも記述されていたが、他の学年の単元にも動物をテーマにしたものがいくつか存在しており、学校側からもこれらの教材の要望は高かった。補助教材としてはもちろんだが、日常になじみの少ない動物の資料はこちら側が思っている以上に大変重宝がられ、喜ばれるものと思われた。

当園ではより充実したプログラムを提供していくことを使命と考え、今後も様々な取り組みを行っていきたい。